

花山震災復興の会

がんばっぺ

NO.1

〒989 - 2511 栗原市花山字本沢百目木地内 仮設住宅談話室 e-mail hanayama_ganbappe@yahoo.co.jp



花山震災復興の会「がんばっぺ」

去る6月14日の岩手・宮城内陸地震は、花山にも甚大な被害をもたらしました。

避難指示・勧告による金沢地区11世帯・中村地区27世帯・浅布地区30世帯と住宅被害の大きい程野地区2世帯の計70世帯は、現在もそれぞれ避難生活を余儀なくされています。

震災以後、行政関係機関は復興に向けてハード・ソフト両面での施策を展開しておりますが、避難指示・勧告解除の目途は未だ立たず、避難住民は生活再建の目途を立てられない状況にあります。

震災を単に避難地域のみならず花山全体の問題として捉え、花山の住民みんなで、支援して下さる多くの方々と連携しながら、被災住民の生活再建とコミュニティーの再生そして何より花山の復興を目指して、住民独自の活動組織「花山震災復興の会「がんばっぺ」は生まれました。

会員数（12月15日現在）

74名（正会員69・支援会員4・賛助会員1）

浅布23・中村19・金沢10避難地区以外の花山18 花山以外4

活動記録

9月19日 仮設住宅を中心に設立総会案内を配布

9月21日 花山震災復興の会「がんばっぺ」設立総会を開催 45名で発足
被災者要望アンケート配布
「がんばっぺ農園」の各戸割当図を作成

仮設住宅裏の不耕作地を借用、みんなで草取りや石取りをし、お年寄りの運動不足解消と実益を兼ねて29区画の農園を開設しました。現在はすべての区画が埋まり、栽培する野菜によってビニールマルチをしたりしながら、各戸ごといろいろな野菜を栽培し、現在は冬野菜を必要に応じて収穫しています。

9月28日 自民党宮城県連との懇談会開催 27名参加

要望アンケートの集計結果を配布し、被害状況、被災者の現状などを説明

10月1日 花山全戸に入会案内配布

10月7日 栗原市社会福祉協議会に義援金配分要望書を提出

- 10月26日** 花山青少年旅行村にて「がんばっぺ」主催の芋煮会を開催
天候には恵まれなかったが169名が参加
- 11月12日** 栗駒耕英復興の会と第1回意見交換会
- 11月14日** 花山観光物産協会の山古志視察に同行
- 11月29日** 迫の釣具店サンリバーさんのご好意で「庄司恵子チャリティーショー」を開催
250名参加
- 12月1日** 栗駒耕英復興の会と第2回意見交換会
- 12月10日** 栗駒耕英復興の会と連名で市長に要望書を提出

要望書の概要は次のとおりです。

- 1、長期避難生活への支援について
避難生活の更なる長期化が予想される中、地区民の生活実態の把握と実情に即した直接的、間接的な経済的生活支援策を早急に検討するよう要望。
- 2、避難勧告・指示解除後に向けての条件整備と支援策について
避難指示・勧告解除後、経済的に安定した生活が送れるようになるまで、各種税金の免除、無事冬を乗り切れるよう雪害対策、特に高齢者世帯等除雪作業が困難な世帯に対する協力、早期の避難勧告・指示の解除、離職者の再雇用や新しい雇用の創出を要望。
- 3、今後の生活再建、生業再建、住宅再建に向けて
上記再建に向けて実態の把握と段階的かつ長期的な支援策の検討及び予算的な措置を要望。

- 12月14日** 地震から半年を迎え、復興への思いを改めて確認し、お互いに励ましあって冬を乗り切ろうと、缶ドルイベントを開催 100名参加

花山震災復興の会「がんばっぺ」役員（50音順）

会長 大山 幸義 **副会長** 佐々木 正弘
理事 後藤 栄喜 佐々木 周行 佐々木 美恵子 佐々木 雄子 菅原 清志
 早坂 絹子 三浦 長美
事務局長 伊藤 廣司
会計 野口 千鶴子
監事 菅原 光記 三塚 千代志

会計報告（12月3日現在）

収 入		支 出	
会費	75,000	事務費	23,187
義援金・見舞金等	1,228,809	事業費	341,282
雑収入（預金利息）	4		
合計	1,303,813	合計	364,469

避難指示・勧告地区以外の避難

一迫川流域の松の原地区9世帯、避難指示地域外の金沢地区（早坂）3世帯の住民は湯の倉の土砂ダムの水位により避難を指示されておりましたが、現在は「大雨警報」が発令されると土砂ダムの水位に関係なく避難を指示されている状況です。